

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

| | | | |
|-----------|---|--|---|
| 事業名称 | 令和6年度 港北水と緑の学校事業 | | |
| 事業の実施者 | 団体等 | 特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク | |
| | 行政 | 横浜市港北区 | |
| 事業の目的 | 港北区において、環境活動や防災活動が継続的に地域に根づくことを目指し、学校と連携し、鶴見川流域の自然環境と防災などについて学習する区内小学校向け体験型講座を実施する。 | | |
| 事業の内容 | (1) 小学校を対象とした環境防災学習講座の運営 (14回) (2) 展示会の運営 (1式) | | |
| 役割及び責任分担等 | 事業項目 | 受託者の役割 | 委託者の役割 |
| | ①小学校を対象とした環境防災学習講座の運営(14回) | 1 講座の企画及び運営 2 参加校との事前打ち合わせ 3 教材・資料等の作成 4 アンケートの実施回収 | 1 参加校の募集・申込受付 2 教材・資料等の印刷 3 広報・PR |
| | ②展示会の運営(1式) | 1 展示会の企画及び運営 2 会場提供者との連絡調整 | 1 広報・PR 2 広告協賛企業の周知 |
| ③その他 | 1 第2条の事業目的を実現するために効果的と思われる取組の委託者への提案 | 1 事業の持続的な運営に向けた広告協賛企業の募集 2 上記①②の他、第2条の事業目的に寄与する、受託者の自主的活動への後援や広報協力 (後援については、委託者が定める要綱に基づく申請を要する) | |
| 実施期間 | 契約締結日から令和7年3月21日まで | | |

| | |
|---------------|--------------------------|
| 記入日 | 令和7年6月12日 |
| ・団体等名： | 特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク |
| ・記入責任者 氏名： | 阿部 裕治 |
| 連絡先： | 045-546-4337 |
| ・部署名： | 港北区区政推進課 |
| ・記入責任者 氏名： | 大橋 沙綺乃 |
| 連絡先： | 045-540-2229 |

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができていたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

| | | | |
|-------|---------|-----------|------------|
| よくできた | まあまあできた | あまりできなかった | まったくできなかった |
| A | B | C | D |

①事業計画段階

| | | 団体等 | 行政 |
|---|--|-----|----|
| 1 | 自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。 | A | A |
| 2 | お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。 | A | A |
| 3 | ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。 | A | A |
| 4 | 実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。 | A | A |
| 5 | 会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。 | A | A |
| 6 | 事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。 | B | A |

②事業実施段階

| | | 団体等 | 行政 |
|---|--|-----|----|
| 1 | 率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。 | A | A |
| 2 | お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。 | A | A |
| 3 | 相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。 | A | A |
| 4 | 事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法等をふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。 | A | A |
| 5 | 必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。 | A | A |
| 6 | 事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。 | A | A |
| 7 | 事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。 | A | A |

③ふりかえり段階

| | | 団体等 | 行政 |
|---|---|-----|----|
| 1 | 協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。 | A | A |
| 2 | 受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。 | A | A |
| 3 | これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。 | A | A |
| 4 | 期待された事業成果を得られることができたか。 | A | A |

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

| |
|--|
| 事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。) |
| 【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ○魚とり体験や川の生きもの観察等、鶴見川流域の治水や防災の解説等を内容とする講座を安全に十分配慮しながら実施できる計画づくりができた。 ○講座や延期対応の回数を精査することで、日程の再調整等の負担感を減らし、事業内容に特化した講座を実施することができた。 ○講座に参加した学校へアンケートを実施することで、講座の満足度や理解度、環境保全への思いを確認することができた。 ○展示会の参加校数確保に向け、小学校との講座の事前打合せの段階で展示会の実施について周知した。 |
| 【今後改善が必要と思われること】 ○講座に参加した学校からの実施報告書やアンケート内容を両方で都度共有できるよう各学校へのスケジュール管理を細かく行い、次回の計画づくりに活かす必要がある。 ○展示会について、学校への詳細事項の連絡が遅れてしまったため、来年度は詳しい内容も早めに伝える。学校や会場との調整等、事前の検討や相談を十分行っただけで進める必要がある。 |
| 事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。) |
| 【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ○夏場の気温の高い時期の講座では、両方で安全に運営する方法を検討・確認し、健康チェックや気温確認を行い、状況を踏まえて適宜改善を図った。 ○講座は全て野外で実施することができたが、延期が5回あった(雨天2回、気温・暑さ指数の基準値超え3回)。基準値超えで延期した3回の講座は、予備日を数日離して設定していたことで、実施できたため、来年度もできるだけ配慮して日程調整を行いたい。 ○展示会では、区ウェブサイトやSNS等で発信することで、より多くの来場者に興味をもってもらうことができ、事業の案内や鶴見川の自然について知ってもらうことができた。 |
| 【今後改善が必要と思われること】 ○対象が3年生の講座では、生きもの観察の際の流域の話が難しかったと意見があった。「流域はバクの形」といった理解しやすい内容にとどめ、印象的で楽しい活動になるようにする。 ○展示会開始時に成果物を出展できなかった小学校があったため、講座実施前から展示会での成果発表を意識してもらえよう、申込段階から小学校に対し丁寧に説明しておく必要がある。 ○令和7年4月に施行された「横浜市子ども・子育て基本条例」の趣旨を踏まえ、本事業を通じて子どもたちが直接意見を表明できる機会を積極的に取り入れる必要がある。 |
| 事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。) |

○将来を担う子どもたちが身近な自然を再発見し、自主的・主体的な環境・防災意識の向上や行動変容につなげることができた。また、展示会の作品からも環境や防災について学習を深めた様子を確認することができた。

○講座や展示会を通して、鶴見川流域水マスタープランの洪水時水マネジメント、平常時水マネジメント、自然環境マネジメント、水辺ふれあいマネジメントの理解に寄与することができた。

自由記入欄

効果的且つ持続的に事業を展開していけるよう、互いに協力し、前向きな姿勢で取り組むことができた。次年度も適宜情報共有を行いながら事業を行い、区民の環境保全・防災意識の向上につなげていきたい。